

参考資料

市民アンケート、フォーラム、パブリックコメント、有識者懇談会等でご意見を伺いながら策定した多摩市役所本庁舎建替基本構想をもとにして、より具体的な検討を行い、基本設計の与条件につなげる多摩市役所本庁舎建替基本計画(以下「基本計画」)を検討してきました。今回の基本計画案の作成にあたっては、障がい者団体や若者へのヒヤリング、学識経験者の助言、若手職員を中心としたプロジェクトチームでの検討内容も踏まえました。基本計画検討の中でのみなさんのご意見をご紹介します。

1. 障がい者団体のヒヤリング
2. 若者ヒヤリング
3. 学識経験者ヒヤリング
4. 職員 PT(プロジェクトチーム)最終報告書抜粋

1. 障がい者団体のヒヤリング

多摩市地域自立支援協議会にて基本構想の概要について説明し意見を令和5年11月8日から11月30日まで募集。

全 体	・例えば、スロープなどが距離を感じるぐらいの端のほうにあるというのではなく、中央に置くなどバリアフリーの概念を反映させるような建物になってほしいと思う。7年先の社会では、バリアフリーや合理的配慮は言うまでもないという時代だといいたいと思う。
トイレ	・各障がい者の団体、各障がい者当事者の方のご意見を聞いていただけるとありがたい。具体的に申し上げるとトイレの扉が内開きになっており、狭いところでは足や手が不自由な方は利用しづらい。 ・トイレが非常に狭いので、もう少し広くしてほしい。 ・今の3階の大きさのトイレを全部の階に作ってほしい。 ・各階に2個ずつ(男性用、女性用)つくってほしい。 ・ベッドやリフトがついている大きなトイレにしてほしい。 ・トイレはボタンがほしい。 ・時間制限がないものがほしい。
エレベーター	・エレベーターをもう少し広くしてほしい。
案内表示	・わかりやすい表示にしてほしい。 ・床に、色分けされた誘導のラインがあるとわかりやすい。 ・ひらがなも書いてほしい。 ・わかりやすいイラストがあるといい。 ・電光掲示板で、地図や案内を出してほしい。
各課配置	・障害福祉課をアクセスしやすい場所に作ってほしい。 ・障害福祉課と生活福祉課を1階にそして隣同士にしてほしい。
相談室	・障害福祉課の横にある相談室の入り口も部屋も狭いので、もし作る場合広くしてほしい。
会議室	・会議室など、入り口を広くして、扉を引き戸にしてほしい。
廊 下	・廊下を広くしてほしい。～最低でも車いすがすれ違える幅があるといい。
意見募集について	・やはり当事者の方たちの意見は大事だと思うので、現場で意見を聞いていただければわかりやすいのではないかなと思う。まだ先の話かもしれないが、そのようになったらお願いしたいと思う。 ・設計段階になって、ある程度決まってくるとなかなか変えられないということがある。設計に入る前の段階で、設計の進め方に関する説明会を随時開催して、できるだけ皆さんに周知していただきたい。 ・まだ初回の今回の説明なので、具体的なところは挙げにくいということだ。 ・例えばX(旧 Twitter)などのSNSで広く意見募集について周知するといいたいと思う。 ・11月17日までにご意見をとおすが、当事者の話を聞くとおすが、どのようにして意見を集約するのか。「担当までご意見をお寄せください」となると、そこで終わってしまうので、意見を本当に集めていくという姿勢を持っていただきたい。
庁内動線	・自閉症の方の気持ちを考慮すると、赤い線を辿ると市民センターに行く、青い線を行くと納税課に行くなど、市役所に行った際に自ずと行きたい場所に行けるといった工夫や、見やすい文字にも配慮していただきたい。また、「使用後の消灯をお願いします」といった文章は黒地に白字のほうが自閉の方は見やすい。そういうような、当事者の話をしっかりと聞いて進めていただきたい。往々にして行政の仕事は決めてしまうとなかなか変更がきかないので、7年先を見越して検討を進めてほしいと思った。
駅からの動線	・市役所は人によってアクセスが容易ではないので、駅からの巡回バスがあったり、雨の日に濡れずに庁内に入れるようだといいたいと思う。
プライバシー配慮	・窓口で相談する際に、今は隣の話が聞こえてしまう設計であるので、内的なお話をされる方が多いことから個別の相談室を設けるなど、お互いの声が聞こえないような配慮があるとありがたい。
優先調達	・新しい市役所は規模が大きくなるので、館内清掃などは優先調達を使って業務発注をして雇用率アップや制度改正につながればと思う。
その他	・市役所の建替えについて、団体に持ち帰って皆がどう思っているかを聞きたいと思うので、今いただいた資料を公開してよろしいか。それとも今いただいた資料は内部資料ということになるか。

2. 若者ヒヤリング

多摩大学聖ヶ丘高等学校の協力のもと、探求学習の一環として、1月10日に事前学習、1月24日に庁舎見学を通じて意見収集。

こんなところで働きたい！

子ども心(個性)あるイス →好きなイスを持ってこれる
話しやすい、温かい雰囲気
スーツじゃなくていい(ある程度カジュアル)
整理整頓できている
朝ラジオ体操(健康も大事にする職場)
リラックススペースを増やす
壁を活用できるようにしたい→白一色とかではなく
観葉植物
パルテノン多摩の4階のカフェのあるところみたいなどこ
木造
部署ごとに自分たちの好きな働き場所を考えて作れる
上司が優しい
意見箱
イベント←市役所みんなで
地域交流 子どもの興味がそそられる←小学校高学年～高校

3. 多摩市役所本庁舎建替基本計画素案(草案段階)について 3 人の学識経験者から助言をもらいました。

主な助言のポイント

【防災】中林一樹氏(東京都立大学 名誉教授、明治大学 研究・知財戦略機構 研究推進員)

- ・駅近の面積や職員配置、費用についての検討が書かれていない。従来の出張所という発想をやめ、支所のよ
うにそこに行けばほとんどの窓口サービスができるものをつくってほしい。
- ・3駅での駅近機能では本庁舎と同じレベルで窓口対応できるように本庁と支所のネットワークといったDX水
準などをどうするか記載すべき。
- ・本庁舎は、災害時に市民を守る「災害対応・復旧復興」業務の司令塔であり、様々な救援物資などを受け入れ
る場所ではありません。大事なのは、ライフラインの継続と DX の継続で、設備の強靱さ(レジリエント)とライ
フラインの持続可能性(サステナビリティ)を備えていることです。
- ・そのためには、平時の市役所としての動線・空間利用計画と同時に、災害時の動線・空間利用計画をシャドウ
プラン(第2の動線・空間利用計画)として設計し、忍ばせておくことが重要です。
- ・支所(駅近機能)についても、災害時を想定した業務空間の設営を検討しておくことは重要です。
- ・SDGsの記載について順番通りではなくて似た項目はまとめるべき。
- ・災害時の連携で不可欠なのは消防・警察・自衛隊とともに社協などのNGOやボランティア団体などの民間組
織。こうした中間支援組織と連携がとれるスペースを対策本部の近くに確保するべき。
- ・こうした空間は平時には市民に開放(利用)される施設としておくことも可能である。
- ・駅近機能は災害時にどのような対応をするか検討してほしい。罹災証明、公費解体、生活再建支援などの被
災者申請窓口業務はこの支所で展開するなどは当然の前提である。
- ・外観について、配置、外構、緑化、建物デザインなど縦割りではなくすべて合わせてトータルデザイン的に市民
が誇りを持てる市役所が良い。
- ・事業費については建築費だけではなくDXにどれくらいかかるのか、仮でも良いので総事業費として見せる必
要がある。なお、DXは新庁舎の建設と同時進行で整備し、職員の技能開発も進めることが大切である。さら
に5年後、10年後のDX展開へも、経費を見込んでおくことが不可欠と思う。

【環境建築】伊香賀俊治氏(慶應義塾大学名誉教授)

- ・CASBEEの2021年SDGs対応版を参考にしながら記述すると良い。
- ・カーボンニュートラルの実現を掲げているのであれば、CASBEEのLCCO2の項目での目標値も記載する
必要がある。SDGsのリングも含め、ハードルを上げ過ぎてしまうと事業費に影響が出ることも踏まえ、設計
で工夫する必要がある。
- ・CASBEEのSDGs対応版ではZEBで現在は定義されているが、これからは建材や施工のカーボンまで減
らす国際的な動きもスタートしており、より厳しくなるような改定予定がある。
- ・CASBEEのウェルネスオフィスについても記載することで提案者が考慮してくれる。
- ・ZEBについて政府のロードマップも示されており、これから新築する庁舎に関してはZEB Readyくらいは
やっておかないと追いつかない状況である。
- ・再エネはZEB Readyとは別の予算措置が必要。市の負担分とは別に、例えば国の補助金が見込める分は
再エネ活用に充ててよいなどのルールとその提示ができると良い。

- ・SDGsと絡めるのは良い、カーボンニュートラルも喫緊の課題。
- ・駅近機能との連携のイメージは総務省「フロントヤード改革」がヒントになる。3か所の駅近機能ではいかに本庁舎と同レベルのサービスができるかが課題。本庁舎は住民との接点ができる場としたい。対面での対応を否定するものではないので、すべてを遠隔やオンラインでということではなく、駅近は相談等の入り口というレベルで良いのでは。イメージはまさに銀行の支店。
- ・既に 60 代でも当たり前のようにスマホを持っている時代であり、これからスマホに代わる新たな便利ツールが現れる可能性もある。一方でデジタルが苦手な人を取り残さないためのサポートは絶対に必要。究極はアウトリーチだと思う。
- ・素案に足りない視点は特にないと思う。ただし多摩市の特徴は駅近にあり、そこをもう少し押し出していくべきと捉える人もいると思う。そのためには「建替計画は着々と進めます、あわせて早い段階から駅近の環境整備や試行を、新庁舎供用開始までに取り組みます」といった記述を、基本計画の後半に記述しても良いのではないかな。
- ・2032 年の多摩市の姿は、新庁舎にはあまり手続きのための人が来ない、オンラインでできることが増え、駅近でもサポートができるのがビジョンである。「フロントヤード改革」の考え方からすれば、窓口を減らし、その分を市民の交流スペースなど開放部分にあてるとしている。障がい者の運営するカフェや地元農産物の販売など本庁舎ならではのことができる。駅近でもできるが、駅近は民間で良いし駅近では難しい広い駐車場の活用もできる。

4. 職員プロジェクトチーム(PT)

係長以下の若手職員を中心に23名で構成したメンバーで令和5年7月から12月まで6回の意見交換を行いました。

職員PTの基本認識

職員プロジェクトチーム
TAMA × able

職員PTでは、ライフスタイルやデジタル環境の変化など本市を取り巻く様々な環境の変化を踏まえつつ、2030年度の新庁舎供用開始を見据えて、市民・職員・家族みんなが笑顔になれるような仕事の仕方・働き方を考えていこうとの認識の下、検討を進めました。

取り巻く環境の変化

- ・人口減少に伴う職員の減少
- ・コロナや環境変化に伴うライフスタイルの変化
- ・デジタル環境の変化
- ・市民ニーズの多様化
- ・庁舎の建替え

等



職員の仕事の仕方・働き方を見直す

「市民・職員 家族みんなが笑顔」になれるような仕事の仕方・働き方を！

4

どのように働きたいか、仕事をしたいか？

職員プロジェクトチーム
TAMA × able

理想の
ワークシーン
の洗い出し

めざすワークスタイルの検討にあたり、職員PTでははじめに、理想の働き方・仕事の仕方について、各自がイメージする具体的なワークシーンを出し合い集めてみました。メンバーからは色々な意見がでてきました。

フレックス、ペーパーレス、在宅勤務、モバイルワーク、テレワーク、AI・RPA、チャットボット、WEB会議、ワンストップ、オンライン化、副業、就学 等

⇒一方で、対面でのコミュニケーション、セキュリティ、チェック体制、管理体制、スキルの継承等が必要



7

6つの 重要要素 の内容

そして、6つの要素について、メンバーの想いや考えを整理してみました。

効率性・有効性 = 無駄なく、ただし、市民ひとりひとりに目を向け、各人・組織に最も効果的に

多様性・柔軟性 = 環境の変化に合わせて、場所・時間などに縛られない自分に合った働き方、仕事の仕方を選択できる



例えば・・・

公共施設へ訪問し、相談対応や地域課題の話し合い
⇒ 公共施設でそのまま仕事

上の4つの要素の前提にあるものは？

変革への意識

= 今よりもよくしたい

つながり

= 個人でなくチームで

DXを進めたい

個人で行動することは増えるけれど、つながりを意識して仕事したい

一人で抱え込ませない

9

多摩市がめざすワークスタイル(仕事の仕方・働き方)

職員プロジェクトチーム
TAMA × able

これらの検討をもとに、多摩市がめざすワークスタイル(理想の働き方・仕事の仕方)を以下のようにとりまとめました。

多摩市がめざすワークスタイル (理想の働き方・仕事の仕方)

しばられず、つながって、自分と組織を変革・最適化

～ TAMA × able ～

多様性・柔軟性

つながり

変革への意識

効率性・有効性

各自の能力を最大限発揮するため、時間や場所等に縛られることなく、一方で、職場の仲間とつながり、常により良くなるように変革する意識をもって取り組むことで、最大の効果（住民の福祉の向上）につなげていく。

10

多摩市がめざすワークスタイルを、庁内職員にわかりやすく伝え、よりなじみやすいものとするために、キャッチフレーズを設定しました。

TAMA × able

T . . . つながる(Tsunagaru)、変革(Transform)、笑顔(Twinkle)

A . . . いつでも(Anytime)

M . . . みんなで(Minnade)

A . . . どこでも(Anywhere)

able . . . できる

TAMable (たまぶる)

T AM Able = 「I am able (出来る)」 が隠れる = 色々な可能性を持つ
たまぶる = 多摩らしく、多摩のように

11

めざすワークスタイルを実現するための「窓口スペース」

職員プロジェクトチーム
TAMA × able

多摩市がめざすワークスタイルを実現するための庁舎はどのようなものがよいか、「窓口スペース」「執務スペース」「会議スペース」「福利厚生スペース」の4つのスペースに分けて検討しました。

窓口スペース

- ワンストップなど利便性の高い窓口
- 明るく開放的、居心地のよい空間
- ゆとりのある空間
- スッキリしたカウンター
- わかりやすく効率的なレイアウト
- 予約制の導入や混雑情報の提供
- 書かない窓口
- プライバシーが確保された相談空間

13

執務スペース

- 効率的でコミュニケーションもとりやすいレイアウト
- 物が少なくすっきりした空間
- 快適に集中して仕事ができる環境
- 手軽にいつでも打合せでき、電子黒板などの設備も充実した打合せスペース
- 仕切られた半個室やブースなどの集中スペース
- 業務が行いやすい動線

14

会議スペース

- 利用状況や利用目的を踏まえた適切な規模・数の会議室の確保
- 目的に合わせたレイアウトが可能な、可変性のある会議スペースの整備
- ICT機器などの設備の充実と利便性の向上
- 効率的な利用を可能とする新たな予約システムの導入
- 利用目的に応じて外の視線や音漏れを気にせず利用できるような設え
- 各フロアの気軽なミーティングスペースの充実
- 来庁者にわかりやすい案内表示

15

福利厚生スペース

- 手軽に飲食ができるスペースの整備
- 休憩時に清潔でリフレッシュできる空間の整備
- 休憩時に気兼ねなく自由に使える空間の整備
- 売店の充実(昼食を調達できるなど)
- レストランの誘致
- 手軽に情報交換やコミュニケーションがとれる空間の整備
- 自由に使える作業スペース、コワーキングスペースなどの充実
- 出先や自宅近くで作業ができるサテライトオフィスの充実

16

今後の検討課題や取組方法

職員プロジェクトチーム
TAMA × able

環境整備について

ルール・制度など

- 個人情報の持ち出しルールの整備やセキュリティの確保
- テレワークなど多様な働き方に対応した勤務・文書事務の見直しや勤務管理手法(チェック機能等)の整備
- フリーアドレスが適する課の検討

設備・システムなど

- グループウェアや文書・財務システムの見直し
- 庁舎の外で仕事ができるシステム構築
- 1人1台スマホ・タブレットの検討

電子化・ペーパーレス化

- 文書の電子化の推進
- ペーパーレスへの意識醸成

組織連携や業務分担

- 出張所のあり方の検討
- 本庁と出先機関の新たな連携体制の構築

新庁舎について

- 柔軟性・可変性のある庁舎の検討(やりながら変えられるハードが必要)
- 適切な庁舎規模の検討(結果「足らなくてできない」とならないように)
- 来庁者が立ち入れるエリアの区分け
- 窓口を効率化するための具体的な動線の検討

今後の検討の進め方について

- 建替えに先立ってできる取組みの推進
- 幅広い職員の意見の確認(出先機関や会計年度任用職員等含めて)
- 現場の意見の反映(特に具体的レイアウト等の検討において)
- 庁内全体の意識改革と、そのための庁内へのわかりやすい情報発信

22

